

ユーザーレポート

User Report

— 0の証明 —

個人

愛車クラシックカーにアルコール・インターロック装着を決意。家族に誓う「もう、飲酒運転はしない」

アルコール・インターロック装置を個人のクルマに装着されたご家族にお話をお伺いしました。装着を依頼されたのは、長年アルコール依存症と向き合ってきた65歳の男性とご家族です。同じように、家族や身近な人の飲酒問題に悩みを持つ方の参考になればと、導入に至るまでの経緯と葛藤を赤裸々に語っていただきました。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



愛車クラシックカーに アルコールインターロック装着を決意

美しいクラシックカー、愛称『ポンコツ』。その所有者である A さん (65 歳) は、長年アルコール依存症と闘ってきました。通院と投薬を続ける傍ら、2 度の入院を経験しています。断酒の難しさを痛感していた A さんを救ったのは、家族の支えと、東海電子のアルコールインターロック「ALC-ZERO II」でした。

「お酒を飲むと、どうしても運転したくなる時があるんです。ブラックアウト (記憶の欠落) を起こしたこともあり、自分の行動が分からなくなるのが一番怖かった」と A さんは振り返ります。その言葉には、飲酒運転の加害者になることへの強い恐怖と、自身への戒めが込められています。

そこで A さんは、家族の協力のもと、愛車『ポンコツ』にアルコールインターロック装置を装着することを決意しました。



物理的な抑止力がもたらす安心

アルコールインターロックは、車両のエンジンを始動する前に呼気中のアルコール濃度を測定し、基準値を超えるとエンジンがかからないシステムです。使用する際は、センサーのウォームアップに 20 秒ほど時間がかかります。

「たった 20 秒でも最初は長く感じていましたが、今では運転の一部として受け入れています。ただガソリンスタンドでの給油時などに、若干の不便を感じることはあります。」と A さん。また車好きならではの本音としては、愛車のダッシュボードに固定された機器の方が気になるとのこと。文庫本ほどの大きさではあるものの「正直、気になるよねえ。フラットな部分に 1 つだけ浮いた存在としてあるからねえ。」と、残念な様子です。これに対し、ご家族は A さんの気持ちを受け止めつつも「この小さな機器が飲酒運転を防いで家族みんなに大きな安心をもたらしているんだよ。」と繰り返し伝えていきます。

クラシックカーからは、浮いた存在にみえる機器。しかしその効果が確かなものであることは A さん自身が一番実感しています。「装置を付けてからは、飲酒した状態で運転しようという気持ちが物理的にブロックされる。これで自分だけでなく、家族も安心してくれることが、本当にありがたい。」



データが語る真実

アルコールインターロックは、測定結果を自動で保存します。取材時に東海電子社員により抽出した測定データを目前に、A さんは顔色を変えました。それまで饒舌であったのが突然口をつぐみ、その場を離れようとしたのを奥様に制止されました。

A さんの場合、他のユーザーと比較すると、飲酒によってエンジン始動が阻止された記録は非常に少なく、装置が強力な抑止として機能していることが分かりました。

しかし、平日朝はほぼアルコールが検出されない一方で、休日の夕方や夜間帯にアルコールが検出される傾向を示していました。奥様は、アルコールが検出された日時とカレンダーとを見比べ、飲酒する状況を丁寧に振り返られていました。このように、自動で保存される測定結果は、飲酒運転のリスクが潜む時間帯を可視化します。そして継続的に結果を確認することで、本人とご家族が一体となって問題飲酒の解決に取り組めます。

ユーザーレポート

ユーザーレポート

— 0の証明 —

個人

家族の視点

奥様曰く「主人は調子のいい人なんです。嘘もつくし。」と肩を落とします。しかし、それがアルコール依存症患者特有の行動パターンであることも理解されており、生活環境を管理することを含めた献身的なサポートを続けています。依存症と診断されてからは、自宅の酒類をすべて処分し、料理酒すら使わない徹底ぶりです。さらに近隣のコンビニや知人にも見守り協力を依頼するなど、細やかな配慮が伺えます。Aさんが仕事をしていた時は、職場のアルコールチェックにより安全性が担保されていました。退職後の家庭内において、日中の飲酒のリスク管理が新たな課題となっています。



※写真はイメージです

社会全体での取り組みへ

Aさんの事例は、アルコールインターロックの法制化と社会的理解を深める上でも大きな意味を持ちます。「シートベルトのように、この装置がすべての車に標準装備される時代が来てほしい」と、Aさんは自身の経験から強く訴えます。

また、インタビューではアルコール依存症に対する社会の偏見や、職場における飲酒文化についても言及されました。このような個人ユーザーの事例を共有していくことは、飲酒運転防止だけでなく、アルコール依存症への理解を深めるきっかけにもなるでしょう。

今回の対話は、アルコールインターロックが個人の人生に寄り添い、悲劇を未然に防ぐ強力なツールであることを明確に示しています。私たちは今後も、Aさんと愛車『ポンコツ』の安全な日々を支援するとともにこの取り組みの社会的普及に努めてまいります。

編集後記

Aさんご家族が、アルコールインターロックについて知ったのは、韓国のインターロック法制化のニュースがきっかけでした。そこからすぐに日本におけるインターロックを調べられ、東海電子の窓口へご連絡をいただきました。当社は、機器の設置にとどまらず、その後のサポートも欠かしません。何度かご自宅へお伺いする中で、Aさんからは「最近では飲酒をしていない」と聞いていたのですが、ご家族によると、飲酒をした時にはその記憶が抜け落ちているため本人は飲んでいないとの認識であることがわかりました。このような不安定な状況下であっても「今はインターロックのおかげで安心して生活ができています」と笑顔のご家族に私たちが励まされ、今後も一層の貢献を誓うのでした。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、アルコール・インターロックを導入されたAさんご一家



LINE 公式アカウント

大切な人の飲酒運転で
悩まれていたら...

@700xyfip



いつでもLINEで
ご相談ください!

© LY Corporation

アルコール・インターロック
社会実装と個人装着を推進する
特設サイト
アルコール・インターロック.com
～飲酒運転被害者をゼロに～



東海電子WEBサイト
【アルコール・インターロック.com】
<https://alcohol-interlock.com/>



導入事例動画
【あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり】
<https://youtu.be/CcXm5jBgeTQ>

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。